

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	消火活動中の高圧ガスボンベ（アセチレンボンベ・酸素ボンベ）破裂事例。
3. 体験した事例の中心的要素	現場到着時、火災最盛期。消火活動を隊員2名で開始して間もなく、激しい噴出音を確認する。ボンベの安全弁から噴出する音で爆発する可能性は低いと思い活動していた。それでも万一に備え、防火ヘルメットのシールドを装着し、安全な距離を確保するため後退し始めたその瞬間、爆発が起きる。物置小屋の屋根とブロック塀が破壊され、その飛散物が対面する駅舎のガラスを直撃した。隊員側のブロック塀は破壊されなかったため、飛散物等を受けることはなかった。火災鎮火後、物置小屋の中には積み重ねられたタイヤがあり、それが緩衝材となりブロック塀が破壊されず大事に至らなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	安全弁の作動で爆発する可能性は低いと思い込んでいた。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成19年12月3日 午後8時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：住宅に増築された物置小屋で、駅舎が軌道をはさみ隣接する。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、爆発・破裂
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[木造建物]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[27] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[33]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A及びBが	消火活動を開始する。	
経過2	当事者A及びBが	激しい噴出音に気付く。	
経過3	当事者A及びBが	防火ヘルメットのシールドを装着。	
経過4	当事者A及びBが	安全距離を確保するため後退する。	
経過5	高圧ガスボンベが	直後、爆発が2回起きる。	
経過6	ブロック片が	対面する駅舎のガラスを直撃し破壊。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。指揮者が適切に指示した。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

ヒヤリハット事案

消火活動中の高圧ガスボンベ（アセチレンボンベ・酸素ボンベ）破裂事案

種別

火災 現場活動初期

活動内容

消火活動中に、高圧ガスボンベ（アセチレンボンベ・酸素ボンベ）が破裂する。

概略

現場到着時、火災最盛期。消火活動を隊員2名で開始して間もなく、激しい噴出音を確認する。ボンベの安全弁から噴出する音で爆発する可能性は低いと思い活動していた。それでも万一に備え、防火ヘルメットのシールドを装着し、安全な距離を確保するため後退し始めたその瞬間、爆発が起きる。物置小屋の屋根とブロック塀が破壊され、その飛散物が対面する駅舎のガラスを直撃した。隊員側のブロック塀は破壊されなかったため、飛散物等を受けることはなかった。火災鎮火後、物置小屋の中には積み重ねられたタイヤがあり、それが緩衝材となりブロック塀が破壊されず大事に至らなかった。

原因

安全弁の作動で爆発する可能性は低いと思い込んでいた。

対策

障害物により周囲の状況の把握が困難であったため、他の隊と連携、情報共有を行い、周囲環境を的確にとらえる。

また、活動に対する経験が不足していたと思われるため、この事例を他の職員と共有するとともに、訓練を繰り返し行う。

